

水稻の生育情報

生育を見て中干しを開始しましょう

概況（6月10日 水稻定点ほ場調査結果から）

6月上旬の平均気温はやや高め、日照時間は平年並みとなりました（図1）。

水稻の生育は、前回の調査（5月30日）ではやや遅めに推移していましたが、今回の調査では草丈と葉色は平年並みとなりました。しかし、茎数は境町の調査地点を除き少なく推移しています（表1）。平年より茎数は少ないですが、全調査ほ場にて中干し実施可能な茎数を確保できています。

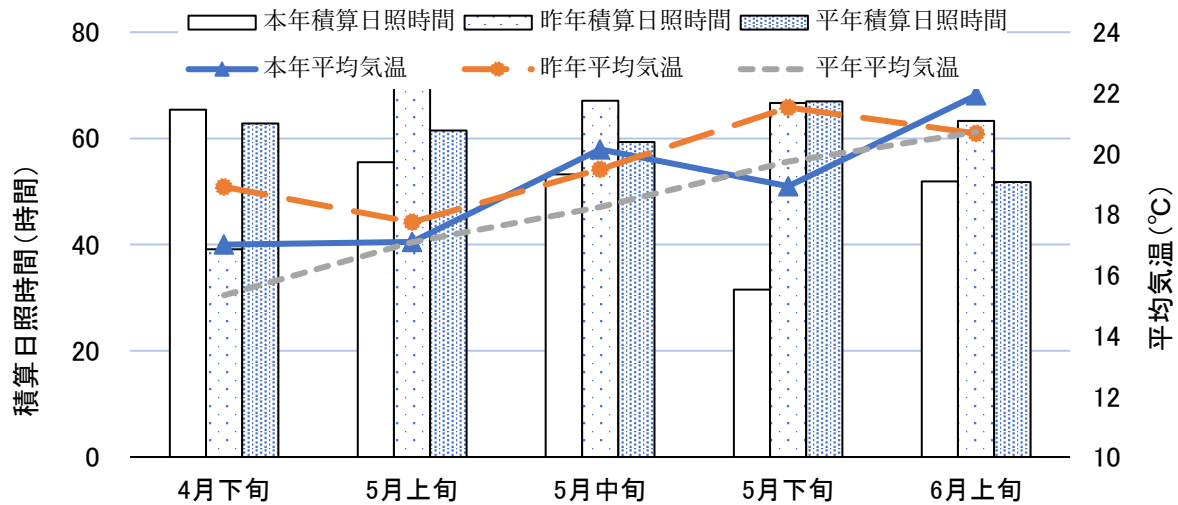


図1 4月下旬から6月上旬の旬別平均気温と日照時間（古河アメダス）

（注）平年値は1991～2020年の平均値

表1 定点ほ場の生育調査結果（令和7年6月10日現在）

品種	調査地点	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数		葉色 葉色板
						(本/株)	(本/㎡)	
コシヒカリ	坂東市	5/2	4.6	16.7	41.5 (41.9)	22	370 (418)	4.9 (4.4)
	境町	4/30	4.5	15.2	47.5 (41.9)	28	426 (388)	4.9 (4.6)
	五霞町	5/8	4.8	15.9	37.7 (36.6)	21	334 (378)	4.7 (4.5)
	古河市	5/14	4.5	15.9	39.4 (38.1)	21	335 (352)	4.7 (4.4)

※（ ）内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

茎数を確保したほ場（茎数330～350本/㎡以上）では、すぐに中干しを行いましょう。

近年、コシヒカリにおいて、乳白米の発生による品質低下が問題となっています。農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市）の調査では、籾数増加に伴い乳白米の発生率が上昇することが分かっています（図2）。

中干しにより過剰な分けつを抑えることで、総籾数の増加を抑え、乳白米の発生率を減少させる効果が期待できます。

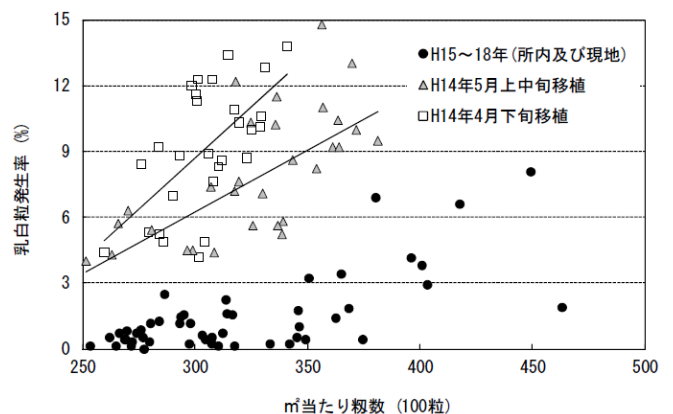


図2 コシヒカリでの乳白米発生率とm²当たりの籾数の関係
（水田利用研究室調査、龍ヶ崎市）